

傳策(四)合源氏

廿二

特 別

ハ13

4274

22





九二編上

91-2353



地西せ紫

松よそり橋

種彦作

國貞画

仙窟堂

壽梓

柳子孫方ふ告奉る。修紫で六楢舟娘。本紫で六常陸乃宮の。娘君の荒る宮ふ。おちぬ事と綴り。蓬生の巻へ源氏須へ下りあり。頃々。娘君の落居の事までと書載て前後へくる物語なり。近く壁言ハ忠臣藏の七段目ハ平右衛門ガ細傳と説んとて主人の國へ飛脚へ行歸りて御家没落よ。蓬生とて非人とあり。師直と稱らんと討得む古郷へ蓬生父及勘平ガ横死とて連判ふ加りて本望と遂早うもふ行事までと記し。三段目の所よりして十一段目の後へ入り。足横の並あり。蓬生もそれと同し。故ハ明石の次ハ操あげ。僅ハ大武の北の方のりて蓬生大誥のこ。蓬生操のちふ加ふりや。これハ長あつと。前ハもさるハ一カ屋を。敵ハ用心厳しくと。又五段目の前の事と。ハひびきよ。齊ハこれと。唯河と文章と。かちるガ故ハ混雜せん歟。

柳亭種彦記

これより世は海の子
幼めぐりて思はれ
うきまがむ血を



思はれむびくへん
あつむも我をうけよ
ちかむしきま



シロニ

石ごのひまのあまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに

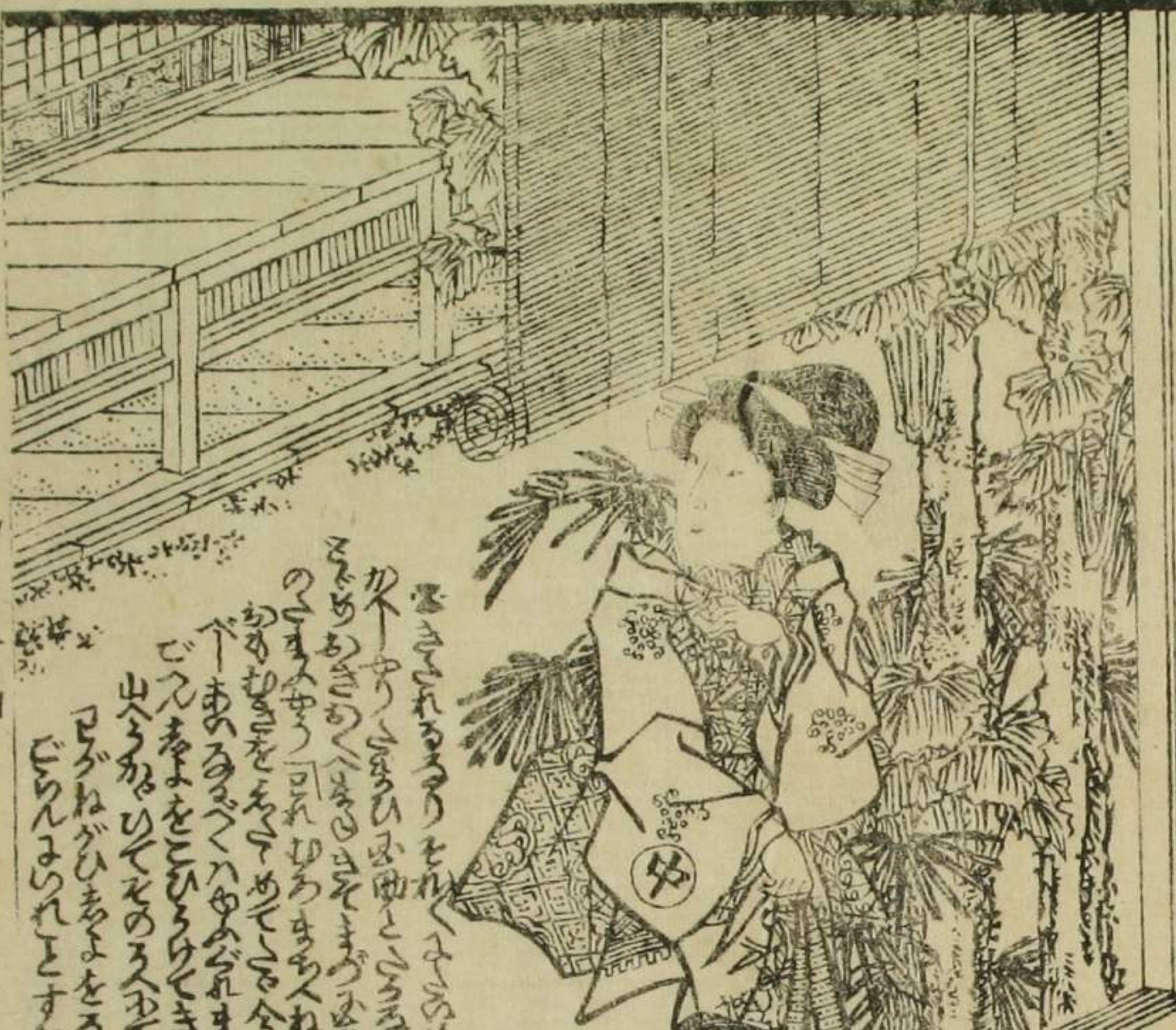


あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに

あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに



あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに



あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに



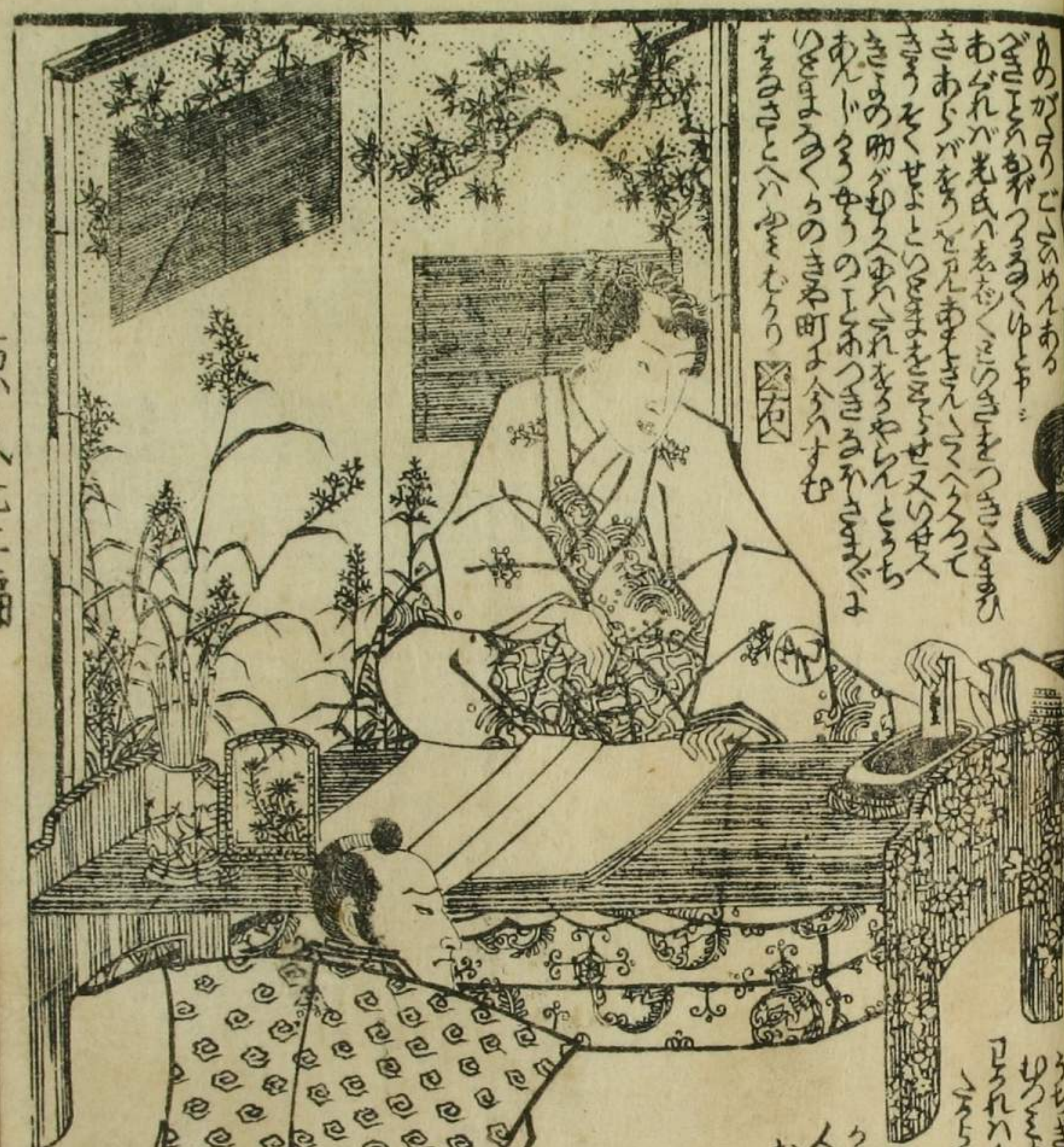
あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに
あまのつらさのまへに

あはれなきまへに...
あはれなきまへに...
あはれなきまへに...



あはれなきまへに...
あはれなきまへに...
あはれなきまへに...

あはれなきまへに...
あはれなきまへに...
あはれなきまへに...



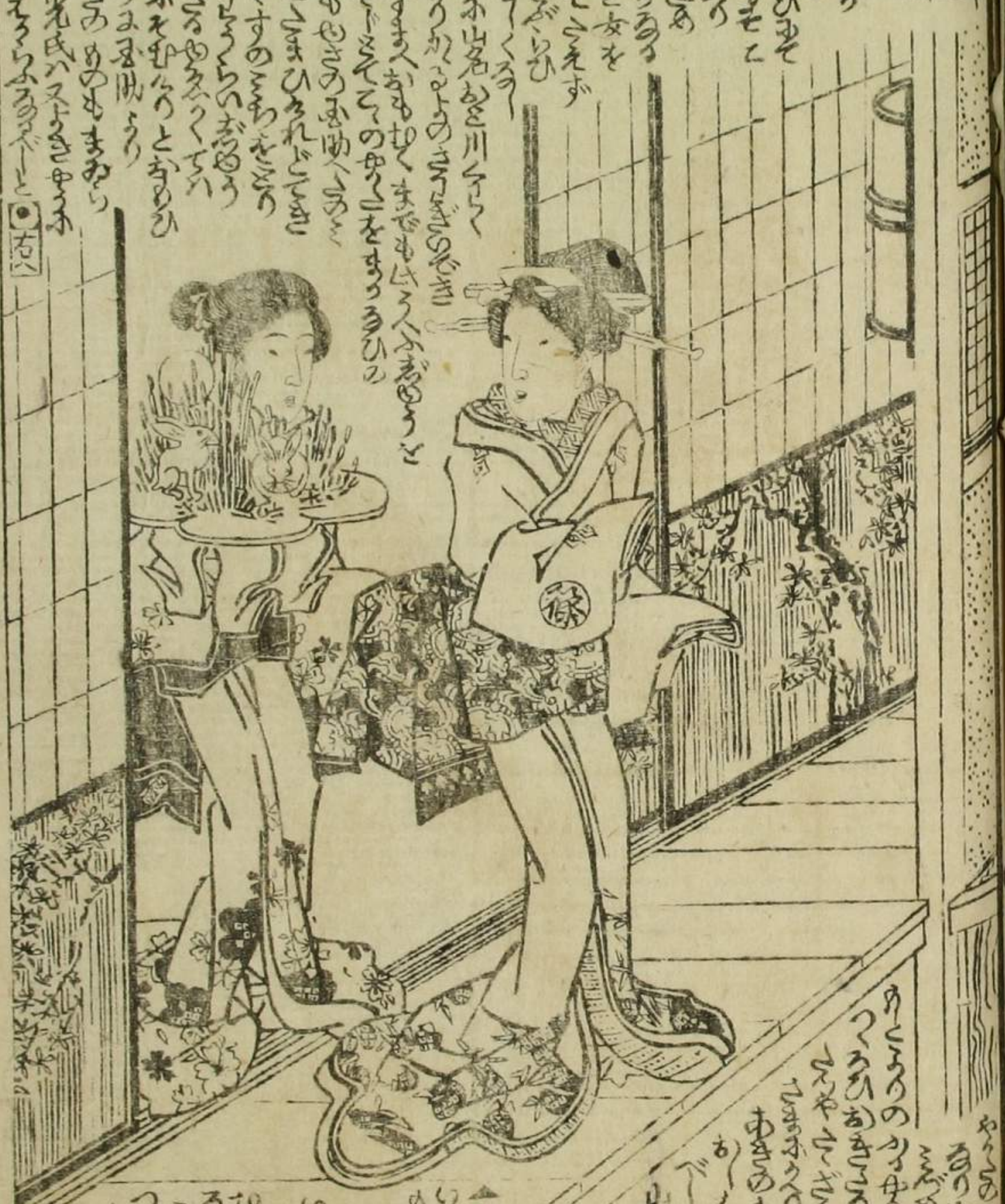
あはれなきまへに...
あはれなきまへに...
あはれなきまへに...

あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは



あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは

あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは



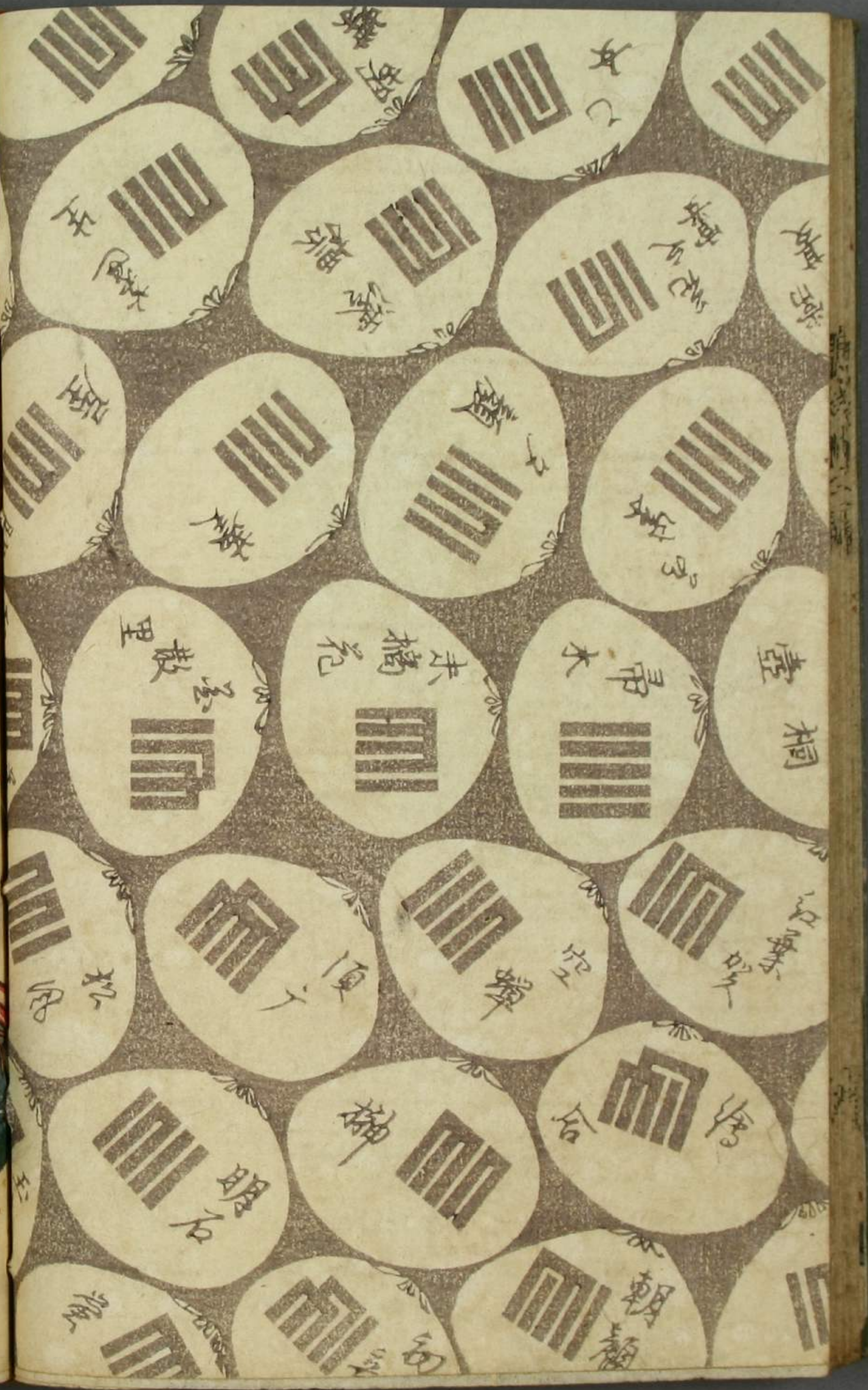
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは

光二編下



種彦也
團員画

種彦居
唯





Vertical Japanese text columns below the illustration, including a large character '三' at the top center of the page.

倭宗田舎
源氏

種彦作
國貞画

第廿二編 下冊

通油町 鶴屋喜右衛門板





おのれはなつかしくも
 うらやまふらふらと
 まるくもあはれし
 中

あんなに
 うらやまふらふらと
 まるくもあはれし
 中

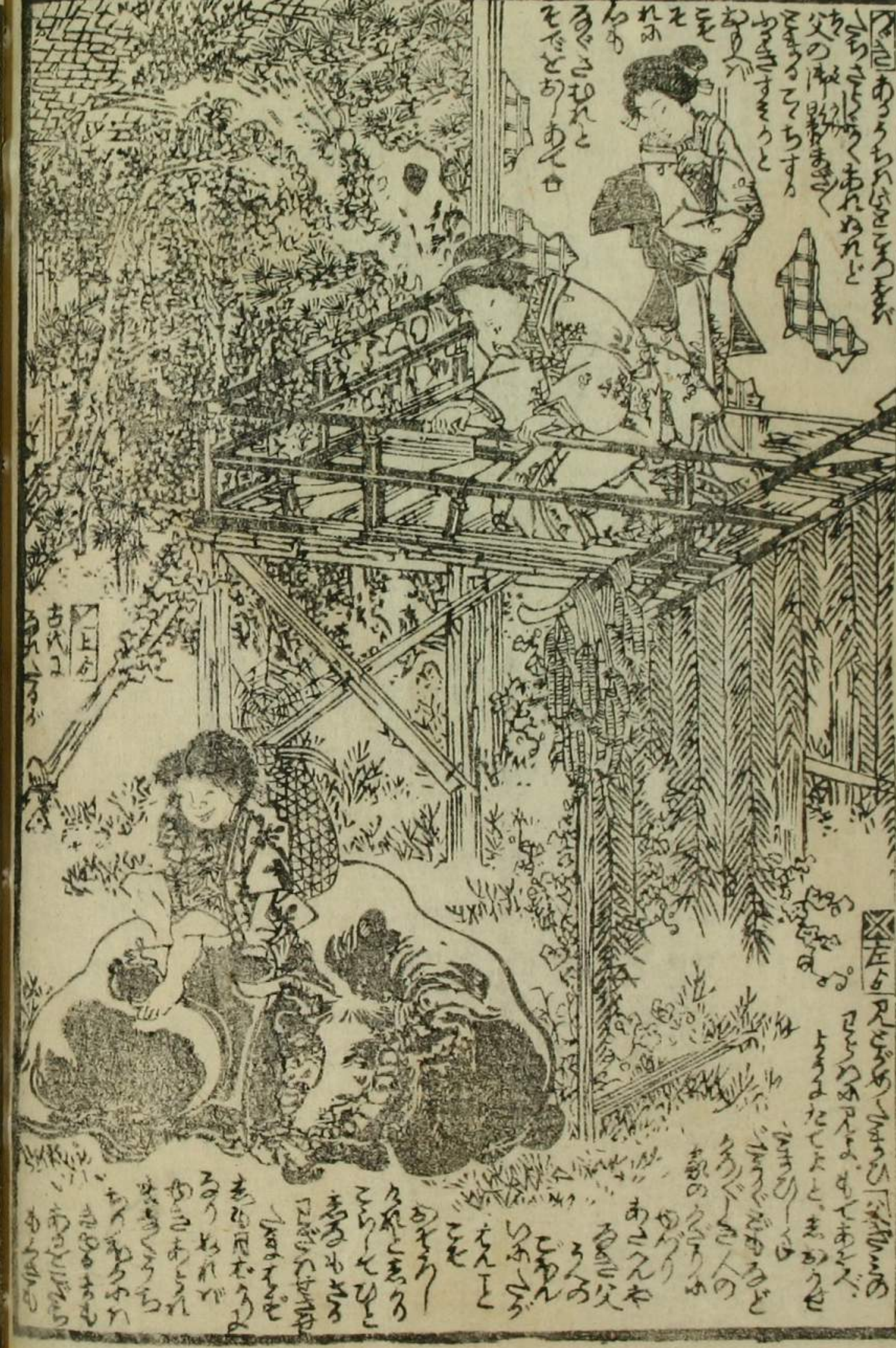
おのれはなつかしくも
 うらやまふらふらと
 まるくもあはれし

あんなに
 うらやまふらふらと
 まるくもあはれし



おのれはなつかしくも
 うらやまふらふらと
 まるくもあはれし
 中

あんなに
 うらやまふらふらと
 まるくもあはれし
 中



源氏十一編

十一



ついでに上と下をとりまきまき
れのものひありまありりもあらぬ
五七をちりまき
よせのひのすのちりまき
日影のひのすのちりまき
そをちりまきあり



これ七のちりまき
ついでに上と下をとりまきまき
れのものひありまありりもあらぬ
五七をちりまき
よせのひのすのちりまき
日影のひのすのちりまき
そをちりまきあり

あつちのちりまき
ついでに上と下をとりまきまき
れのものひありまありりもあらぬ
五七をちりまき
よせのひのすのちりまき
日影のひのすのちりまき
そをちりまきあり



あつちのちりまき
ついでに上と下をとりまきまき
れのものひありまありりもあらぬ
五七をちりまき
よせのひのすのちりまき
日影のひのすのちりまき
そをちりまきあり

あつちのちりまき
ついでに上と下をとりまきまき
れのものひありまありりもあらぬ
五七をちりまき
よせのひのすのちりまき
日影のひのすのちりまき
そをちりまきあり



歌川國貞画

柳亭種彦作

修紫田舎源氏

当年廿二編より廿六編まで兩板おかしき笑覧と程奉希の

柳亭種彦作

一筋道雪眺望

ひとせぢりもちのきり

飛翼連理意の櫻樹

歌川國芳画

森羅万象心意氣

まんならまんさうらろ

歌川國芳画

琴声女房形氣

きんせいのやうが

昔火焚むア

歌川國貞画

美艶仙女香
里油美玄香
四十八銅
南條町
三丁目
坂本氏製



書物錦繪
團扇地紙
問屋

江戸通油町
鶴屋喜右衛門

